

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

学校名	福井市足羽中学校
報告者	小木一伸

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

実施期日 令和6年12月4日(水)

想定時間 13:15~14:20

参加者 生徒414名 教職員40名

学校防災アドバイザー2名(立平 政勝氏、飛田 幸平氏)

2. 訓練の目的、内容(※訓練実施計画の添付でも結構です)

<目的>

- (1) 水害が発生したとき、迅速かつ安全に避難する方法を身につける。
- (2) 生徒全員、教職員全員が防災に対する意識を向上させる。
- (3) 生徒・教職員が災害の状況に応じて考える力を身につける。

<内容>

近隣の河川が氾濫し、校内への浸水の可能性が高まったという想定で、校舎の3階に垂直避難する訓練を行った。生徒には期日のみ周知した。避難完了後、防災アドバイザーの方からご講評および水害に対する説明をしていただいた。

II 訓練の成果と課題

1. 成果

生徒・・・静粛かつ迅速に避難することができた。

教職員・・・生徒および教職員の点呼を迅速に行うことができた。今まで、日程の都合で訓練に参加できなかった配膳員や事務職員も訓練に参加することができ、防災意識を高めることができた。

2. 課題

生徒・・・一部の生徒が階段を2段跳びをして避難していたので、避難する際には、慌てずに行動することを徹底させていきたい。

教職員・・・点呼の報告をする際に、具体的な人数を報告すべきであった。



←防災アドバイザーの方が、放送で水害について説明
していただいている様子

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(講義形式)

学校名	足羽第一中学校
報告者	柘植 泰子

I 実施状況

1. 実施期日・参加者(学年・人数)等

期日: 令和6年12月19日(木)

参加者: 防災アドバイザー 松井峰晴

学校事務共同実施足羽グループ 教頭・事務職員

教頭

[Redacted]

事務職員

[Redacted]

計20名

2. 実施の目的、内容

○目的

災害時に子ども達を守るために教職員としてどのような対応が必要となるか、そのために日頃から何を考え、備えておく必要があるのか、近隣の学校間で考える機会とする。

○内容

前半: 学校防災アドバイザー講義(50分)

避難訓練や学校防災について

後半: ワークショップ(50分)

足羽グループ学校版タイムラインの検討

II 成果と課題

1. 成果

学校防災アドバイザーの講義では、形骸化した避難訓練を避け、前年踏襲ではない内容で行うことが大切であることを学んだ。とくに余震・停電を想定することも必要であり、事前事後指導・振り返りをえて、児童生徒自身が考えて行動できるような内容となることが望ましいことが分かった。そのような目的のために、シェイクアウト訓練や封筒訓練を取り入れることも効果的であると学んだ。

ワークショップでは、学校版タイムラインを検討した。風水災害時、各校で想



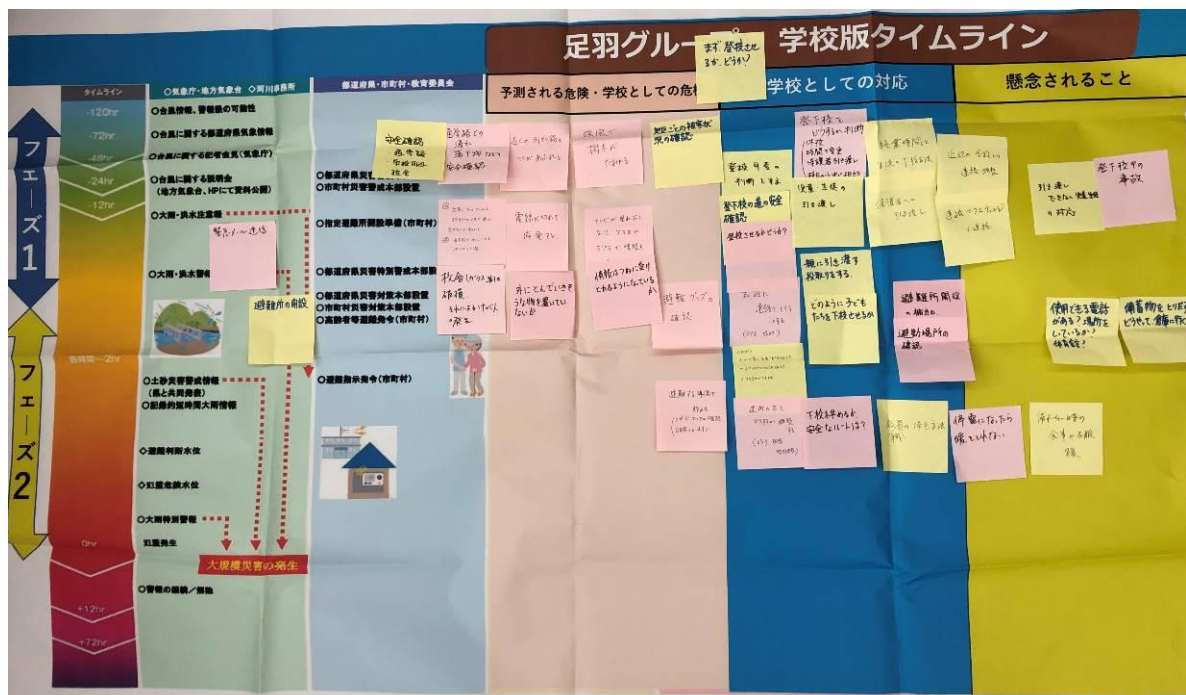
(様式2)

定される危険や学校としての対応・懸念されることについて協議し、発表を行った。避難経路や落下物などの状況確認、情報収集、連絡手段の確保など必要な内容について確認することができた。また、学校待機を選択した場合の必要な物資の検討も必要であることが分かった。

2. 課題

今後の避難訓練について、今回の講義内容を生かして取り組んでいきたい。特に、教頭と事務職員は、職員室にいる時間が長く、緊急時に何らかの対応をしなくてはならない。教頭は校長の指示を受け、適切に対応、指示をしなければならないのは当然だが、事務職員は非常時にも職員室におり、教頭の指示により様々な対応をする可能性が高い。本校は避難訓練時も事務職員に対応をしてもらっているが、避難訓練に事務職員が加わらない学校もあると聞いた。今回の講義、ワークショップで学んだことを受け、引き続き危機管理について事務職員ともしっかりコミュニケーションを取っていく必要がある。

また、タイムラインについて想定されることや必要な対応など、各学校において、管理職のみならず、全ての教職員と共有する必要があると感じた。今後、現職教育などを活用し、本校の学校版タイムラインを作成し、非常時、災害時の対応について共通理解を図っていきたい。



(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

学校名	福井市明倫中学校
報告者	田嶋 祥大

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

※派遣された学校防災アドバイザーの氏名を必ずご記載ください

実施日:令和6年11月8日(金) 14:30~15:20

想定時間:50分

参加人数:生徒599名、教職員38名

派遣された学校防災アドバイザー:マイク・ヨコハマさん

2. 訓練の目的、内容(※訓練実施計画の添付でも結構です)

添付資料 参照



II 訓練の成果と課題

1. 成果

- ・ここ近年で被害が多くなっている浸水被害に対する避難訓練であったため、生徒も真剣に取り組むことができた。また、生徒たちはスムーズに垂直避難をし、避難完了まで落ち着いて行動することができていた。
- ・学校防災アドバイザーの方の講演では、学校以外で起きた場合の避難の方法について、福井市のハザードマップの確認等のお話を受け、浸水被害が起きた場合について考えるきっかけになることができてよかった。

2. 課題

- ・明倫中学校では、垂直避難をする際、北校舎と南校舎と完全に二分割されてしまう。そのため、生徒の集合完了などの情報共有を、LINEを使って実施した。しかし、普段教員が携帯を持ち歩いていないこともあり、その情報共有の手段を考える必要性がある。
- ・福井豪雨災害から20年の節目であり、明倫校区も被害にあった地域であるため、生徒が身近に感じられる映像や画像を事前指導として見せ、訓練の意義を伝える手立てをとるべきであった。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

令和6年度 浸水訓練実施要項

福井市明倫中学校

1. 日 時 令和6年11月8日(金) 第6校時(14:30～15:20)
2. 目 的 洪水等の浸水時における避難の方法を知る。また、避難行動の要領を体験し、安全避難する基本的な習慣を身につけさせる。教職員においては、浸水時の避難の方法と、生徒の点呼及び安全確保の方法を確認する。
3. 想 定 大雨が降り続いたことで大雨・洪水注意報が発表される。6校時開始3分後の14:33頃、大雨で足羽川が決壊し、浸水し始めたとの防災無線が入った想定で、屋内での安全確保を図るため垂直避難の指示を出す。
4. 訓練内容
 - ・浸水時における生徒及び教職員に対する避難指示の訓練
 - ・緊急時における生徒及び教職員の安全確保、人為点呼対の訓練

5. 避難訓練計画

○避難訓練 当日の動き

第1部 足羽川が決壊により、校舎3階への垂直避難を行う。

第2部 福井県防災士による助言と水害に関する講話。

時間	指導内容及び実施概要	生徒の動き
朝の会	○担任から事前指導 <指導内容> ・浸水時を想定した上層階に避難する訓練を行うこと ・真剣にやること	
昼休み ※今回は行わない	○今後の対応の協議を行う。 「学年主任の先生方は、校長室にお集まりください。」 「生徒の皆さんは、自分の教室に戻り、待機しておきましょう。」	
6 限目 13:30	○担任から避難経路などの確認 落ち着いて放送を聞くこと、避難経路、避難後の過ごし方について指導を行う。(事前指導の内容の徹底)	
14:33	○緊急放送(避難の指示) 「訓練、訓練。たった今、大雨により足羽川が決壊したという情報が入りました。3m～5mの浸水の恐れがあるので、この放送が終わったら、全員、校舎の3階に避難しなさい。『おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない』を守って、慌てず、担任の指示に従って避難しなさい。」 ・教頭は、職員室にいる先生方に非常持ち出しの指示を行う(今回は指示だけで、実際には運ばない。 非常持ち出し物搬出()) ・教務主任は、出席簿・拡声器を持って行く。 ・職員室にいる教員は、被服室へ避難する。	○緊急放送を聞く。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

	○生徒の避難誘導（各教室担当） 「お・は・し・も」を守り、慌てず避難させる <使用する階段> 3－6, 7, 保健室、心の教室、職員室⇒南校舎西階段 2－1, 2, 3, 4⇒南校舎東階段 1－5, 2－5, 6⇒北校舎東階段 1－6, 7, 2－7, 9組⇒北校舎西階段 ○3階の教室は、机を後ろに下げ、座って待機させる。 ○保健室の生徒の避難誘導（綿谷） ○心の教室、相談室の生徒の避難誘導（ 支援員） ○避難完了および点呼 各担任は人員点呼を行い、学年主任にLINEで報告する。 学年主任は、揃い次第教頭に報告する。 <人員点呼の手順> 担任→学年主任→教頭→校長	○静かに素早く整列をし、避難をする ○静かに避難し、整列・点呼を行う。
14:50	○以下の順に教室に戻る 北校舎：2年生→1年生 南校舎：2年生→3年生	○避難してきたクラスは、放送の指示で各教室に戻る。
15:00	○指導高評 司会：安全担当 ――校長先生のお話 ・福井県防災士の方からの助言と講話	
帰りの会	○振り返り 振り返り用紙を書き、終わったら、担任の裁量で残り時間を過ごす。	

6. 避難訓練場所

		(該当学級生徒) → (避難先)			(該当学級生徒) → (避難先)
北校舎	1階	2－5→第1音楽室 2－6→第1音楽室 2－7→明倫B 9, 10, 11組→明倫B	南校舎	1階	2－1→第2音楽室 2－2→第2音楽室
	2階	1－5→1－2 1－6→1－3 1－7→1－4		2階	2－3→3－1 2－4→3－1 3－6→明倫A 3－7→明倫A
	3階	1－1→1－1 1－2→1－2 1－3→1－3 1－4→1－4		3階	3－1→3－2 3－2→3－2 3－3→3－3 3－4→3－4 3－5→3－5
管理職・無担・養護教諭：職員室・保健室→被服室					

7. 係役割分担

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

○本部・総指揮	校長	・全体指揮、生徒の安否・怪我人の把握。
○避難誘導係	担任・教科担任	・担当生徒の誘導、避難後の学年の掌握。
○搬出係	教務主任、事務部	・職員室にいる教員と協力して、非常持ち出し物品の搬出を行う。
○救護係	養護教員	・職員室で各教員からの情報を収集。 ・点呼時に当該学年の列の前に立ち、全てのクラスの点呼報告を受ける。報告を受けた後は、学年主任に報告内容を引き継ぐ。
○企画・当日指揮 ○評価用紙作成	■	・避難訓練企画運営、福井県防災アドバイザーとの打ち合わせ。 ・生徒用事後評価用紙、教員用事後評価用紙

8. 浸水避難訓練振り返り

【生徒用】



【教員用】



画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(講義形式)

学校名	鯖江市鯖江中学校
報告者	笹田 明広

I 実施状況

1. 実施期日・参加者(学年・人数)等

11月20日(水)15:30～17:00 教職員4名

講師 学校防災アドバイザー 松井 峰晴氏

2. 実施の目的、内容

- (1) 本校危機管理マニュアル作成についてのアドバイスと作成のポイント
 - ・ 文部科学省発行の「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」から、作成に当たってのポイントを解説していただく。
 - ・ 本校の危機管理マニュアルの「学校における危機管理について」、「緊急時のマニュアル」、「火災の場合」、「地震の場合」、「台風・大雪・土砂災害・洪水の場合」、「登下校時に生徒に危険が及ぶ考えられる事件の発生の場合」についてアドバイスを受ける。
- (2) 実践的な避難訓練の実践例の紹介
 - ・ 鯖江市中央中学校の封筒避難の様子を動画で見せていただき、避難訓練の今後のあり方について解説していただく。
- (3) 避難訓練実施要項作成のポイント
 - ・ 避難のストーリーをつくり、先生や生徒が自分で考え判断する力を養う訓練の必要性をアドバイスしていただく。

II 成果と課題

1. 成果

- (1) 本校の危機管理マニュアルを事前に松井様にメールで送らせていただき、当日は細かい資料を見せていただきながら危機管理マニュアル作成のポイントについて詳しく解説していただいた。また、既存のマニュアルについて記述の内容について良いところをご指摘いただいた。
- (2) 同市中央中学校の封筒訓練の動画を見せていただき、来年度以降の避難訓練の方向性を示唆していただいた。特に先生や生徒が自ら考え判断する力を養う訓練の重要性を実感した。
- (3) 来年度春の避難訓練に向けて今年度中に本校避難訓練の実施要項を見直し、より実践的なより緊張感のある訓練となるようにしていきたいと実感した。

2. 課題

- 松井様や消防署のアドバイスをいただきながら、来年度春の避難訓練が、実践につながる訓練となるように、今年度中に要項を見直す必要がある。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

学校名	鯖江市東陽中学校
報告者	森 泰彦

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

実施期日:令和6年11月14日(木)15:20~16:00

想定時間:40分

避難~点呼完了まで約5分,体育館への移動・整列5分,講話約30分

参加者(生徒:1年・90名,2年109名,3年82名 教職員:30名・視察4名を含む)

学校防災アドバイザー 松井峰晴 氏

※松井氏との事前打ち合わせを10月21日(月)15:30~17:00に実施

2. 訓練の目的、内容 別添の実施要項を参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

今回の避難訓練では、特に水害を想定し、校舎内の上層階への垂直移動を中心に行った。生徒たちは、事前に定められた避難ルートを使い、指示に従って避難場所へ移動することができた。階段を使つての上階への避難も、混乱なく順調に行うことができた。

避難時は、自分の荷物を持ちながらの避難になったが、特に混乱することもなく、若干のタイムロスがあったものの、全体としては指導に従い、きちんと行動することができた。

訓練を通じて、避難の迅速さや集団行動の重要性について理解が深まった。そして、生徒たちは避難に対する不安を減らし、教職員も避難誘導の際の手順や点呼の際の注意点など再確認し、今後の改善点とすることができた。

2. 課題

生徒たちは垂直避難が必要となる状況を体験したことがなく、また、実施当日は晴天であり、危険を感じるような状況にはほど遠く避難訓練が現実感を欠いていた可能性がある。また、水害の避難訓練では、災害が発生した際の緊急性があまり感じられず、真剣みに欠け避難訓練の効果が薄れていたようにも感じた。

かつて被災したことがある地域ではあるが、水害での避難方法や場所、タイミングなどについて、訓練の重要性が十分に伝わっていたかどうか危ぶまれる。そのため、今回のように防災アドバイザーの講話等で、過去の大雨や洪水の事例を動画や写真で紹介し、どのような場所が危険になるか、どのように避難すべきかなどの情報を得ることで、より実践的で効果的な避難訓練になったように感じた。



令和6年度 第2回避難訓練実施要項

鯖江市東陽中学校

- 1 日時 令和6年11月14日(木)15:20～16:00(帰りの会終了～東陽タイム)
- 2 目的
 - ① 垂直避難の経路を確認し、放送や教員の指示に従って安全に避難できるようにする。
 - ② 水害に関する講話を聴き、防災意識の高揚を図る。
- 3 想定 本日、14日午後3時7分、鯖江市に「顕著な大雨に関する情報」が発表される。
鯖江市では線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続き、命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっている。
すでに冠水している道路があり、生徒を下校させることは困難である。
東陽中学校はハザードマップによる浸水深が0.5m～3.0mと想定されているため、3階への垂直避難で安全を確保できる可能性が高い。
まだ停電は発生しておらず、放送による避難指示が可能である。
避難の際は、本部を3階図書室に設置する。
- 4 避難先 3階フロア(1年:会議室, 2年:多目的室, 3年:3階ホール)に避難する。
点呼完了後、各学年主任が本部(図書室前)に避難完了の報告を入れる。
本部への報告が終わった学年から、荷物をもって静かに体育館に移動する。
体育館への移動には、1年:北西階段、2年:南東階段、3年:南西階段を使用する。
- 5 講師 学校防災アドバイザー 松井峰晴 様
- 6 教職員の役割分担
 - 校内放送:教頭
 - 搬出(出欠黒板の写真を撮る)・司会進行(体育館):
 - 誘導・観察・残留者確認(避難時、教室や廊下に残る者がいないか確認する)
 - 北校舎1階:
 - 北校舎2階:
 - 北校舎3階:
 - 保健室:
 - 南校舎1階:
 - 南校舎2階:
 - 南校舎3階:
 - 体育館・武道館:
 - 整列指導:各学年生活指導担当
 - 放送機器・スクリーン・プロジェクター準備(体育館):
 - 講師・来客(校区内小学校から4名)対応:校長・(講師補助)
- 7 避難の仕方について
 - ① 災害発生の危険が高まっている情報及び避難についての指示放送を静かに聞く。
 - ② 下校の準備を行い、荷物をもって学年ごとの避難場所へ移動する。
1, 3年生は水平避難、2年生及び1Fにいる6, 7組や相談室・保健室の生徒は垂直避難となる。
避難時に近くの窓を閉め教室の電気を消す。
 - ③ 避難場所・体育館での隊形は、学年集会・全校集会の隊形とする。
 - ④ 終了後は体育館で解散し、部活動や下校とする。
- 8 点呼について
 - ・ 担任(授業者)が確認し、学年主任→教頭(本部)→校長(本部)の順で報告する。
 - ・ 支援学級で授業を受けている生徒は、3階フロアに移動後、各学年の交流学級で点呼をうける。
 - ・ 保健室や相談室など、教室以外で授業を受けている生徒については、担当者が学年主任に伝える。
上記の生徒が訓練に参加できない場合は、事前に学年主任に伝える。
 - ・ 教職員については、学年ごとに避難・整列し、学年主任が確認して、生徒数とともに教頭に報告する。

9 訓練の流れ

14:15	○ 会場準備 ・ プロジェクター, スクリーン, マイク, テーブル, 音響等設置
14:20	・ 学校防災アドバイザー 松井氏来校 機材の接続確認, 動画や音響の確認, リハーサル等の実施
15:00 ～10	・ 校区内小学校 防災担当教諭来校 控室で待機・訓練の概要を説明
15:20	○ 教頭 緊急放送で状況を説明し、避難指示を出す。 本日、14日午後3時7分に、鯖江市に「顕著な大雨に関する情報」が発表されました。 現在、鯖江市では線状降水帯による非常に激しい雨が、同じ場所で降り続き、命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。また、すでに冠水している道路もあります。 東陽中学校はハザードマップによる浸水深が 0.5m～3mと想定されているので、すぐに下校の準備を行い、1年生は会議室、2年生は多目的室、3年生は3階ホールに荷物をもって集まりなさい。
15:23	・ 各学級で迅速に下校の準備を行い、所定の場所に荷物をもって学年集会の隊形で整列する。
15:25	・ 学年ごとに点呼を行い、学年主任が教頭(本部・図書室前)に報告する。
15:25	・ 本部への報告が終わった学年から、所定のルートで体育館に移動する。
15:28 ～30	・ 体育館に全校集会の隊形で整列する。全校が揃うまではしゃべらず静かに待つ。 ・ 体育館に全員が整列完了。
15:30	○ 校長講話 ・ 動画視聴やパワーポイントで、福井豪雨時の学校や地域の様子を紹介。
15:40	○ 学校防災アドバイザー松井氏による講話
16:00	避難訓練終了・解散

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	鯖江市中央中学校
報告者	仲野 隼人

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

実施期日 9月2日（月）16:30～17:30

参加者 中央中教員 管理部長 XXXXXXXXXX
学校防災担当 仲野隼人

アドバイザー 松井峰晴氏
久保田幹大氏
辻子雄二氏

2. 実施の目的、内容

- ・11月に行う避難訓練へのアドバイス
- ・避難所開設についてのアドバイス

II 成果と課題

1. 成果

- ・11月に行う避難訓練は、教室外に避難しない避難訓練を計画している。慶応大学大木教授の推奨する新しい避難訓練を、中央中学校でも応用できるようアドバイスをいただいた。

<いただいたアドバイス>

○要項にある内容自体は現時点では良い。

○「封筒訓練」はアドバイザーの方々も経験したことがないので、実施してみて課題を見つけるPDCA

サイクルをしていくとよい。

○担架で運ぶのは危険。特に階段は6人で運ぶのがやっと。重篤な生徒は、できるだけ動かさずに救急車を待つ方が良い。今回だと教室から少し動かした安全な場所で待機させるのがよい。

○「おちて こない たおれて こない いどうして こない」→「おたいこ」

特にピアノなどの大きなものが移動して来る危険性もある。ピアノの下への避難も危険である。

<アドバイスを受けて取り組んだ成果>

○「封筒訓練」は、こちらが思った以上に生徒の反応も良く、やりたいと言った生徒も多かった。

いざロールプレイしてみて、「励ましの声をかけられて嬉しかった」「自分もそういう声掛けをしたと思った」という感想や、周りの生徒も、「つらそうな生徒を見つけたが、いざその時は声をかけることができなかった。」「自分のことだけではなく、周りのことも考えられる人になりたい」など、実際にやってみて、「いざというときにこうなりたい」というビジョンを考えることができた生徒が何人もいた。初めての試みで、混乱した部分もたくさんあったが、アドバイザーの方がおっしゃった通り、やってみて良かった訓練だった。

○担架で生徒を運ぶのは非常に難しいというのは知っている教諭も少なく、特に階段での移動は危険だということを共通理解することができた。

○避難訓練時のパワーポイントで、「ピアノ」などの大きな物が、地震の時には動いてきて危険だと

いうことを初めて聞いた、驚いた、という生徒の感想がいくつもあり伝えることができてよかった。
(追記)

10月2日、再度学校にアドバイザー松井さんに来ていただき、封筒訓練についてのアドバイスをいただいた。松井さんが訪れた多くの学校でも封筒訓練に興味を持ったり、取り組んでみようとしていたりしていると伺った。「新しい試みなので、失敗をおそれず、まずはやってみましょう」と心強いアドバイスいただいた。

11月8日、訓練当日。試行錯誤し作成した中央中バージョンの封筒訓練による避難訓練を実施
<今回の避難訓練の内容(主だったもの)>

○教室から避難しない

○生徒からランダム(封筒を渡した6人の生徒のうちの何人か)で怪我人や動けなくなる生徒が
でるという設定

○余震が起こる

アドバイザー松井さんをはじめ、校区の各小学校の防災担当の先生にも来ていただき、訓練をみて
いただいた。訓練後、松井さんから大変実りのある訓練だったと、ありがたいお言葉をいただいた。

<生徒感想(一部)>

○今までは地震で余震がなかったけど今回のシン・避難訓練をして余震の怖さパニック、怪我、な
ど様々な恐怖がありより真剣に取り組めました。

○封筒訓練をすることによってけが人の対応や、過呼吸になっている人の対応ができと思いまし
た。先生の指示を待つのではなく自分で考えて行動することが大切だと思いました。

○本当に地震が起きたときは、誰が、どこで、どのような症状で困っているかわからないので、周り
の様子をしっかりと確認して、全員が無事でいられるようにしたいと思う。

2. 課題

(避難訓練後課題)

訓練の細かい内容についてまだまだ改善の余地があり、今回の訓練をベースにさらに改善して
いければよい。

○事前の準備

- ・やったことのない訓練のため、要項作成に試行錯誤した。
- ・教職員の事前研修で要項の確認を行った後で、色々な質問や改善点が出てきた。その変更
が難しく、また、大規模校であるが故、教職員全体での最終的な情報共有が難しかった。
- ・当日の教員の動きについて、当初は、アドバイザーの指導の下、教員は学年をチームとして
臨機応変に動くように計画した。しかし、事前研修の後、細かい動きを想定した内容を作成
した方がよいという提案があり、当日はそれに基づいて臨機応変に対応できるようにした。

○訓練内容

- ・各クラスで、生徒から数名怪我人等がでるということで、ふざけないか心配であったが、
ほとんどのクラスで生徒は真剣に取り組んでいた。ただし、次回同じ訓練を行うとなった時
には、その時も真剣にできるように、さらに手だてを考えるなど必要である。
- ・緑のカードの生徒(軽い異状者／クラス内での声掛けで正常に戻る)しかいないクラスは、
緑の生徒が元気になった後、訓練が終わるまで特にやることなくただ待っているだけだっ
たとの指摘もあり、次回やる際は、そのように感じさせない手だてが必要である。
- ・副担任の先生に各階安否確認と怪我人対応の両方は、負担が大きかった。

- ・狙いの一つに、動けない生徒を発見した時や、動けない生徒に対して「声を出す」とあり、実際に、体験してみることで、声を出したかったけど出せなかったといった感想もあった。改めて、このような訓練をすることで生徒がより避難訓練に真剣に取り組み、かつ、いざという時には声が出せないことを理解した上で、「声を出す」ことができるように訓練を積み重ねていく。

<教員振り返り>

- 校舎内にいる方が安全の場合が多いと思われるため今回のような避難訓練は必要だと思いました。今回は設定が細かく示されていて大きな混乱はなかったように思いますが AED を必要とする場合の事例もあるといいと思いました。
- 目新しさもあったのだと思うが、生徒たちが自分事として取り組んでいた。5回声をかけたら復活するという指示の生徒には、私が声をかけるまでもなく、自分たちで声をかけていた。ただ、赤や黄色の生徒（中度・重傷者／救護場所へ避難させる必要あり）がいないクラスでは何が起きているのかわからない時間がやや長い。担任が状況を伝えるなどするとよい。
- 今回はクラスで数人の生徒のみが封筒をもらうだけだったので、もらわなかった生徒がソワソワしている姿が見られたので、準備は大変ですが、クラスの人数分封筒があるといいのかなと思いました。
- 臨機応変に動くこと、関わることの難しさと大切さを生徒とともに学ぶことができました。



封筒訓練の封筒の中身を確認する生徒。



訓練前のパワーポイントでの講習。



出血をした生徒を担架で運ぶ様子。怪我人発見時には、怪我人を動かすのではなく、担任の機転で周りの机を動かしていた。怪我人が運ばれた後、余震が来た时机の下にもぐれないと思った生徒が声掛けをして、自分たちで机を元の位置に戻っていた。



本部（職員室）で、各クラスの被災状況の情報収集および、救急車の手配を行った。



封筒訓練に使用したカード。「怪我無し」以外が入っていた生徒はその役割を演じている。

シン・避難訓練 (中央中バージョン)

I. 教室で避難
II. 封筒訓練
(中央中バージョン)

- ・指示があってから机にもぐる
→ **地震を感じたら**机にもぐる
- ・地震は1回とは限らない
→ 高確率で**余震**が起きる
- ・先生だけが助けてくれる。
→ **自分たちで**、周りの怪我人や状態異常者を**発見し**、助けの**「声をだす」**

シン・避難訓練(中央中バージョン)

II. 封筒訓練
(中央中バージョン)

①各教室で、3～6人、封筒を受け取り各自周りに見えないように中身を確認。封筒の中に書いてある役割を、地震が発生したタイミングで行う。封筒には、(怪我無し)もあります。

音楽室

パワーポイント資料(一部)

令和6年度 第2回 避難訓練 実施要項

(10/23ver)

鯖江市中央中学校

1. 期日 11月8日(金) 6校時(14:25~15:15) 開始15分後に緊急放送を入れ訓練を行う。

2. 今回の訓練の意図

◎耐震工事を行った学校の地震時の倒壊率はものすごく低く、火災や津波等のどうしても学校から避難しなければいけない時以外は、教室は比較的 안전한場所である。校庭などに避難することで、かえって余震による転倒等の二次被害を招く恐れがある。また校庭等に避難後も、安全が確保されるまでに長時間もその場で待機する可能性があり、トイレや点呼、水分補給等のことを考慮すると、教室は地震から引き渡しまでに安心して生徒を待機させられる場所でもある。

→ 避難場所は各教室

◎来るべき大地震発生時に、必ずしも教員と一緒にいるとは限らない。教員の指示だけを静かに待ち、周りの異変に対応できないことのないように、生徒自身が自ら考え、判断できるようになる必要がある。

→ 緊急時の自己判断・封筒訓練(中央中 ver)

◎被災時には、生徒が窓ガラスや落下物等で怪我をしたり、パニックや痙攣などを起こして動けなくなってしまうたりすることもある。そのような生徒(時には教員)への保健室への搬送や本部への報告をフロアごとにチームを組んで行っていく。

→ 怪我人等発生時の対応訓練

3. 実施内容

(1)全校一斉に避難訓練を行う。

・全クラス教室・担任対応。今回の避難訓練についての目的や狙いを説明する。

(2)各フロアを「1階」「2階」「3階」「4階」の「北」と「南」、「新校舎」の「1階」と「2階」とし、「旧校舎」は「南東階段」を情報収集の場とするため、救護場所を「1階…保健室」「2階…第2職員室」「3階…図書室」「4階…第1美術室」とする。「新校舎」は「新校舎玄関」を情報収集の場とし、救護場所を各階の「職員室」とする。

(3)非常用防災設備等の使用について

・事前に消防署とSECOMに連絡し、非常用防災設備を使用する。
・非常用防災設備の使用法は、別紙資料で確認をする。

(4)振り返り

・今回の訓練の狙いや目的を再度確認し、本当の地震があったときにも実践できるよう考えさせる。

(5) 封筒訓練（中央中 ver）について

- ・各クラスに6枚、「怪我人（ガラスで出血）」「状態異常（硬直）」「異常なし」などが入った封筒を用意する。（「異常なし」が半分以上、「怪我人」は学年に1枚程度）
- ・封筒訓練の説明後、担任は何人かの生徒に封筒を渡す。（4～6人）
- ・封筒を受け取った生徒は、他の生徒に見られないように中身を確認する。
- ・避難訓練開始時（緊急放送時）、封筒を受け取った生徒は、机の下に隠れると同時に、封筒に書いてある役割を行う（ロールプレイ）
- ・他の生徒は、怪我人や状態異常者を発見したときは、すぐに担任に報告する。
- ・報告があった担任は、怪我人や状態異常者を確認し、声掛けを行う。緊急を要する場合は、他の教員を呼び、救護場所に移動させる。
- ・全フロアの状況の確認ができれば訓練終了。

(6) その他

- ・今回の避難訓練についての講習を事前に行う。（10/23 職員会議時）
 - 今回の訓練の目的
 - 封筒訓練（中央中 ver）のやり方
- ・今回の避難訓練は「学校安全支援事業」の一環として、避難訓練の内容を「学校防災アドバイザー」によるアドバイスをいただいて作成する。
- ・「学校安全支援事業」の一環として、校区の小学校の防災担当教員も見学に来られる。
- ・担架で階段を運ぶのは非常に難しく危険なので行わない。「赤（重傷者）」については、各フロアの救護場所に避難させる。（重傷者が近くにいと、他の生徒が過呼吸などのパニック症状を起こす）

4. 避難訓練の流れ

	教室	職員室
①	15分間、今回の災害訓練の流れを説明する。 ・動画「【シン避難訓練・・・】you tube 日テレnews」を見る（4分） ・放送の指示で、動画やパワーポイントを見る。 <封筒訓練（中央中 ver）の説明> ・引き続き放送の指示でパワポを見る。 ・「封筒訓練（中央中 ver）」の説明をする。 ・3人～6人の生徒に「封筒」を配る。 ・「封筒」をもらった生徒は中身を確認する。	・パワーポイントの放送をする。 ・だれも封筒を受け取らないようであれば前・後期級長に配ってください。
②	<地震発生> ・地震速報が流れる。 （机の下に各自避難する） ・「封筒」の中身が「怪我人」になっている生徒は「怪我人」の役を演じる。 ・怪我人の報告があれば、教員が対応する。 ・地震後1分程度したら、教員の指示で机下から出て椅子に座る。 ・生徒は、周りに「怪我人」や「状態異常」の生徒がいないか確認し、発見したら先生に報告したり、励ましたりする。	・地震速報を流す。 ・職員室にいる先生で、各フロアに被害状況を確認しに行き、本部（清水政T）に報告する。
③	・「赤・黄」レベルの生徒を救護場所に連れていく。 ・「赤」は担架を持っていき、同じ階の救護場所に連れていく。 ・担任は、怪我人だけでなく、クラス全体に安心できる声掛けを随時行ったり、具合が悪くないか、周りに具合の悪そうな生徒がいないかも聞き取ったりする。	・「赤・黄」の生徒を救護場所に連れていく ・「赤」の生徒がいれば担架を持っていく。（★担架には乗せない）
④	・2回目の余震がある（机の下に各自避難）	・地震速報（2回目）を流す。
⑤	・訓練終了の放送になったら、訓練終了する。 ・救護場所に運ばれた生徒も教室に戻る。	・全クラスの情報共有が終わったら訓練終了の放送を行う。
⑥	<振り返り> ・放送の指示でパワーポイントを見る。	
⑦	・タブレットで振り返り・感想を記入する	・時間が足りなくなったら帰りの会で行う。

① 15分 ②～⑤ 15分 ⑥ 10分 ⑦ 10分

本日の避難訓練について

※職員会議後、色々な指摘やアドバイスをいただいたので、当日の動きをまとめました。
基本は「学年対応・学年をチームとして動く」ですが、3年生は出張多、1年生は新校舎もあるので、手の足りない学年のところには「臨機応変」に対応してください。「チーム中央」で頑張りましょう。
よろしくお願いします。

6限目までに用意するもの (担任)	①パソコン→テレビにつなぐ(タブレットかノートパソコン) ・teamsでパワーポイントを一斉放送します (※前回のデータは必要ありません) teams「2024職員室」で「1108避難訓練」で会議を開くので参加してください。 ・給食までに会議を開くので、給食時や昼休みに入ってみてください。 ②封筒(※封筒の右上のマークがついているものはその色のカードが入っています) ・立候補した生徒に封筒を分けるが、だれもない場合は前後期級長に封筒を分ける。 ③生徒にタブレットの用意(最後に振り返りを行います) ④各学年の「避難訓練教員動きのプリント」 ⑤色の生徒への声掛けの準備(緑や黄色の生徒は他生徒にも声掛けをまかせる)
副担	①各学年の「避難訓練教員動きのプリント」 基本はこの動きに沿って動いてください。 ・報告は、副担→学年主任(3年は副主任)→本部 ・本部への電話は、緊急時以外使わない。できるだけ直接本部に行って伝える。 (本部がパンクするため。電話がつかない間に行けるため。) ※地震発生時は、職員室にいる先生も机の下に避難してください。
本部	◎清水政T、山下T 救急車への連絡は山下Tに一括。 ・救急への連絡時には、「訓練・訓練」を最初につけてから救急車の依頼をする。 ・赤2名の救急車の依頼はそれぞれ連絡する(2回)
養護教諭	赤2名対応。 ・1階(1-11生徒)は保健室に運ぶ。(担架：保健室) ・2階(3-2生徒)は第2職員室に運ぶ。←養護教諭が向かう(救急箱持参) (担架：職員室横小部屋)
当日流れ	1 パワポで放送
	2 封筒訓練の役割分担
	3 地震音(20秒ほど)
	4 音が鳴りやんで、10秒ほどしたら放送 「ただいま大きな揺れを観測しました。授業担当の先生は、生徒の安否確認をしてください。火事や大けが等の緊急の案件があれば職員室まで連絡してください。」
	5 担任は「みんな大丈夫か」「席につけるか」と席に戻す。 緑・黄の生徒の対応をする。かけつけた副担にクラスの現状(赤・黄の数のみ。緑は報告しなくてよい)を伝える。 副担は、集まった情報を主任に報告する。
	6 緑の生徒：元気になるまで声掛けを行うor生徒に声掛けさせる。 黄の生徒：副担が避難場所まで連れていく。 赤の生徒：担架で運ぶ(今回は担架には絶対乗せない) ※避難訓練の途中で余震が1回おこります。
	7 全クラスの現状把握ができ、避難場所への移動が確認出来たら終了。 放送：「全クラスの避難および現状把握ができました。これで避難訓練を終わります。」
	8 放送後、避難した生徒は自分でクラスに戻る。
	9 パワポ放送の続き
	10 パワポの最後にQRコードがあるので、タブレットで読み込んで避難訓練の振り返りを行う。
	11 担任の先生は封筒を回収する。→仲野まで

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(講義形式)

学校名	越前町 朝日中学校
報告者	小林 仁美

I 実施状況

1. 実施期日・参加者(学年・人数)等

日 時 令和6年9月17日(火)16:50~17:20
参 加 者 3名(教頭、 教諭、小林 仁美教諭)
指導・助言者 防災士・学校防災アドバイザー 松井 峰晴 氏

2. 実施の目的、内容

(1) 学校防災アドバイザー派遣の目的

本校は今年度、文部科学省作成の「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」を参考に、既存の危機管理マニュアルの大幅な見直しを行った。見直しをした危機管理マニュアルを学校防災アドバイザーに見ていただき、指導や助言を受け、実効性のあるものへ改定する。

またアドバイザーから「防災」や「危機管理に関する」情報をいただき、防災に強い学校づくりを目指す。

(2) 内容

事前にメールで学校防災アドバイザーの松井氏に、次の①~③のデータを送り、評価及び助言を依頼した。

- ①「令和6年度 避難訓練実施要項」について
- ②「朝日中学校危機管理マニュアル改訂版(案)」について
- ③「大規模災害等発生時の生徒引渡しマニュアル(保護者用)(案)」について

II 成果と課題

1. 成果

①「令和6年度 避難訓練実施要項」について

今年度5月に実施した避難訓練実施要項の内容について、他校の実践例を紹介しながら評価していただいた。事前に学級で学習指導を「必ず」する必要があること、最近は「おか(は)しも…押さない・駆けない(走らない)・しゃべらない・戻らない」に一語加えた「おはしもて…押さない・走らない・しゃべらない・戻らない・低学年優先」を採用する場合も増えていること、「机の下にもぐらせる」だけでなく、「シェイクアウト(ドロップ・カバー・ホールドオン)訓練をすると良いことなどを教えていただいた。

②「朝日中学校危機管理マニュアル改訂版(案)」について

文部科学省が作成した「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」に沿っており、全体的に良いものになっているとの評価をいただいた。地域住民との連携について、具体的にすること、e-とこ朝日に防災士の方がいることを教えていただいた。学校版タイムラインの活用についても助言いただいた。

(様式2)

③「大規模災害等発生時の生徒引渡しマニュアル(保護者用)(案)」について

マニュアルがあることが素晴らしいとの評価をいただいた。時間の関係上、じっくり話をすることができなかった部分もあるため、今後もメールを通じて相談に乗っていただき、都度アドバイスをいただくことになった。

2. 課題

様々な助言をいただき、今まで行ってきたこと、見直しした内容について一定の評価はいただいたが、今後も改善しなくてはならないものがあると実感した。また学校全体で学校防災について情報を共有し、教員一人ひとりが、万が一の時に自分の役割を認識し、適切な判断をし、場合に応じては連携して対応できるように、学んでいかなければいけないと感じた。

学校防災に関して、それぞれが重要であると理解していても、実際には自分には関係ない(担当ではない)と他人事にしているところがある。生徒の教員も意識を変え、「防災」を「自分事」としてとらえられるようにしていかなければいけない。そのために情報提供、本校の実状に合った訓練など、少しずつできることから見直ししていかなければいけない。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（講義形式）

学校名	宮崎中学校
報告者	山本 孝子

I 実施状況

1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

10月17日（木）15:45～16:30

学校防災アドバイザー 松井峰晴氏

参加者：教職員13名

2. 実施の目的、内容

目的：本校の「危機管理マニュアル」の内容をより実効性のあるものへ改定するために、学校防災アドバイザーから助言を受ける。また、避難訓練の実施に向けてご指導をいただく。

内容：本校の危機管理マニュアルや、11月に行う避難訓練の実施要項をもとに、安全確保のための教員の動きや避難時の注意点等について指導を受けたり、他校での実施方法などを紹介して下さったりした。

II 成果と課題

1. 成果

本校の危機管理マニュアル、避難訓練の実施要項をチェックしていただいた。良い点を指摘して下さりありがたかった。また、他校での実施例や、安全教育に関するたくさんの情報を紹介して下さり、避難訓練のあり方について改めて考え直す機会となった。

2. 課題

今回の研修を通して、余震や停電（放送ができない状況）、避難経路（廊下等）の状況についての想定甘さに気づかされた。十分に考えられる状況でもあるので、対応の仕方について考え、マニュアルに反映させていきたい。

11月の避難訓練に向けて、実施方法や生徒への事前指導に今回の研修を十分に生かして準備していきたい。

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	宮崎中学校
報告者	山本孝子

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

11月1日（金）9:20～9:40

学校防災アドバイザー 松井峰晴氏

生徒102名、教員18名

2. 訓練の目的、内容（※訓練実施計画の添付でも結構です）

別紙参照

II 訓練の成果と課題

1. 成果

学校防災アドバイザーを招いての事前研修を行い、いただいたアドバイスを訓練計画に反映させることができた。

3分間の揺れ（地震音）の長さの体感、避難経路の危険箇所放送による安全な避難経路の選択、余震による落下物から頭部を守るものを携帯した避難など、アドバイザーに挙げていただいた実際に起きた事例をもとに、より安全な判断、行動のための訓練をすることができた。生徒・教員ともに個々の判断を必要とする設定で、より緊張感をもって訓練に臨むことができた。

訓練後の校長やアドバイザーによる講話をきいて、想定外を想定することの大切さを感じたり、自分の命を守ることも大切であるが助ける人にもなりたいと、自助、共助の意識を高めたりすることができた生徒もいたようだ。

2. 課題

訓練後のアドバイスとして、「救護」「校内の教室や廊下での転倒・移動物の危険」について挙げられた。危機管理マニュアルに反映させたり、校内の環境を防災の意識で見直して整えたりしていきたい。



令和6年度 第2回避難訓練（地震避難）実施要項（案）

10/25

越前町立宮崎中学校

1. 目的 学校全体の防災意識を高めるとともに、生徒・教員の地震発生時における個々の判断能力の向上と避難時の実践力を高める。

具体的訓練目標

教員： 迅速かつ安全に生徒を災害から保護することができるようにする。

生徒： 地震が発生したときの安全確保や非常口および避難経路の確認を行うとともに、放送や教師の指示にしたがって、安全に避難する方法を身につける。（特別活動「保健・安全的行事」に位置づけ）

2. 日時 令和6年11月1日（金）第2校時（9：20～10：10）

3. 想定

授業中に地震発生。

全員避難の必要あり。担当教諭の指示に従って避難する。

9：21…地震発生

その場で安全を確保しながら、緊急放送を待つ

9：24…緊急放送を聞き、全員避難場所へ避難を開始する。

（※晴天時は駐車場、雨天時は体育館）

9：31…避難場所への避難完了

4. 事前指導（1週間前からの学活等で）

避難訓練の目的・非常口・避難経路・避難の方法・避難の心得等について指導する。

※生徒には、避難訓練の実施日のみ伝え、時間については知らせない。

5. 訓練行動予定

時間	放送・非常ベルなど	教員（生徒に対する指導）	確認・通報・連絡
9：21	地震発生（地震の音）（上見） 「訓練、訓練、地震発生、地震発生。生徒の皆さんは机の下に隠れ余震に備えなさい。物が倒れてこない、落ちてこない場所に身をよせなさい。」（教頭）	○地震の音（上見） ○机の下に隠れ、静かに放送を聞かせる指示（教頭） ○生徒の無事を確認（授業者）	○地震の確認、放送連絡
9：24	揺れがおさまる（地震の音止める）	○放送を聞かせる指示（教頭） 「ただいま、安全確認中です。口を閉じて次の放送による指示を待ちなさい。」 ○緊急放送、役割分担の指示（校長）	○職員室にいる先生は、周囲に危険場所（避難不可能な場所）の確認・電話等で職員室へ報告 A：「□□に落下物があり通行できません。」 B：「□□には割れたガラスが散乱しています。」 ○校長に報告、指示を仰ぎ、必要に応じて放送の指示（教頭） ○事務職員は非常持ち出し物の準備、出欠黒板を写真で撮る。 ○全校への連絡放送（教頭）

9 : 27	緊急放送（教頭） 「いま、揺れがおさまっています。（今のところ火災の危険性はありません。）□□は天井が崩れ落ち、通ることができません。先生の指示に従い、頭を保護しながら周囲に十分に注意をして、駐車場に避難しなさい。」 ※計時開始、繰り返し放送する。	○避難の指示（教頭） ○避難	
9 : 32	（教頭） 避難完了		
○避難について 教室からの避難 担当教員は放送の指示に従って避難する。避難経路は落下物等の危険箇所を避け、できるだけ早く屋外に出ることができる避難口を選ぶ。 放送がかからない場合は周囲の状況を確認して避難の指示を行う。 二次的に火災が発生する場合や、建物が倒壊する場合を予測し、避難場所は駐車場を基本とする。 ○点呼について 授業者 ①避難場所で整列できたら、授業者は確実に人数を確認し、生徒を座らせる。 ②教頭に人数を報告する。 「○年○組 在籍○名、欠席○名、出席○名、全員避難しました。」 学年主任 ①教頭に学年の先生（学年の島）の安否を報告する。 「○学年、教諭○名全員、避難しました。」 教務 ①教頭に事務員と用務員の安否を報告する。 教頭 ①教頭は全学級の報告を受けたら校長に報告する。 「在籍○名、欠席○名、出席○名、全員避難しました。」 「職員○名（事務員、用務員含む）、全員避難しました。」 校長に報告した時点で計時を終了する。 ②逃げ遅れている生徒がいたら校長（教頭）は職員に救助を指示する。二次的負傷がないように留意する。			
9 : 34	避難後の指導 ①校長の講評 ②学校防災アドバイザーからの指導 ③お礼の言葉 生徒会長 ■■■さん 教室に戻る		
9 : 45	☆生徒玄関から ・体育・環境委員は先回りして雑巾準備 ・生徒…玄関でズックを洗い、教室に入る。 ※3 B→3 A→2 B→2 A→1 B→1 Aの順 ※教員は、学校防災アドバイザーから指導をいただく。（教室巡視：伊藤 T）		
10 : 00	教室でふり返り用紙に感想と自己評価を書く。 振り返り用紙を書く前に、 授業者 から訓練の様子について指導する。 書き終わったら、2限目終了時刻まで、各教室で静かに自習。		

6. 準備物 ストップウォッチ、雑巾（足ふき用）、スマートフォン（全員）

7. 地震発生時の基本的な行動

職員 ※スマホを携帯していること	
初期行動	・机の下に身を伏せ、机の脚をしっかりと握るよう指示し、<u>生徒と同様</u>身を伏せる。身を隠すところがない場合は手元にあるもので頭を覆いできるだけ低い姿勢をとるよう指示し、生徒と同様の行動をとる。 ・火気を使用している場合は、消火を指示する。
放送	(1) 職員室で危険箇所等の連絡を受けた職員は学校長（教頭）に報告する。 (2) 学校長は必要な指示を与える。 (3) 職員室にいる職員は、学校長（教頭）の指示のもと校内放送で全校に通報し、避難の指示をする。※放送がかからない場合、大声や拡声器等を使って避難の指示を行う。
避難	(1) 職員室にいる職員は、報告のあった危険箇所を確認し、誤って近づいてきた生徒に通行できないことを伝え、最寄りの避難口から避難するように伝える。 (2) 事務職員は、学校長（教頭）の指示により非常持ち出しの準備 (3) 職員室以外にいる職員は、予想される<u>避難経路の安全を確認しながら生徒を避難させる</u>。 ※避難時の<u>余震も想定</u>しておく。 (4) 授業者は、教室にいない生徒を確認した場合、近くの教員と声を掛け合い、トイレなどを探索し、避難させる。 ※<u>放送がかからない場合</u>、駐車場に避難することを共通理解しておく。
点呼	(1) 授業担当者は人員を点呼し、教頭へ報告する。（在籍者数、欠席者数、避難者数、異常数） (2) 学年主任は、学年の島の教員の安否を教頭に伝える。 (3) 教頭は学校長に生徒、教職員の避難状況を報告する。 (4) 学級担任は学級生徒の指導と保護にあたる。

生徒		
地震発生	共通	(1) 「上から物が落ちてこない」「横から物が倒れてこない、移動してこない」場所に素早く身を寄せて安全の確保をする。慌てて屋外へ飛び出すことは危険である。 (2) <u>シェイクアウト</u>：机等の下に頭部を守るように身を伏せ、机の脚をしっかりとつかんでずれないようにする。机等がなければ、手元にあるもので頭を覆い、できるだけ低い姿勢をとる。
	授業・給食・清掃・部活動中	(3) 理科等で火気を使用している場合は、消火する。 (4) <u>騒がずに、静かに放送を聞く</u>。 (5) 放送の指示があるまで、勝手な行動はとらない。放送が入らない場合、教員の指示を待つ。 (6) 放送（教師）の指示に従って、避難出口・経路を確認し、整列し、廊下に出る。足元、周囲等の安全状況を確認しながら静かにすばやく避難する。 (校舎内では教員が先頭・外に出たら教員が最後尾) 「お」押さない・「か」駆けない・「し」しゃべらない・「も」戻らない (7) 外に出たら、駆け足で避難場所に集合する。 (8) 集合場所に着いたらすぐに整列し、授業者（担任）が人員確認をする。 授業者（担任）の指示で座る。
	休み時間	(3) 放送および教師の指示を静かに聞き、落ち着いて行動する。 (4) 「お・か・し・も」を守りながら、危険場所の近くは通らないように避難する。 校舎外にいる場合は、放送および教師の指示をよく聞き、避難場所に移動する。

<教師用資料>

1. 事前指導

◆実施の週 10/28(月)～31(木)帰りの会、学活等に行う。

○時間は予告せず、「11/1(金)」に行うことを伝える。

○ワークシートを活用し、訓練後の事後評価についても伝え、回収後、担任で保管する。

◆具体的な指導内容

○地震および火災発生時の対応

①シェイクアウト

Drop:低い体勢 机の下に潜る

Cover:頭を守る 頭を守る

Hold On:動かない 机の脚をしっかりとつかむ

②緊急放送を逃さずに聞き、避難経路を考える。

放送内容：火災の有無、火災発生場所の確認、避難場所の確認、校内の危険箇所など

※普段から放送がなったら静かにする

③廊下に整列し、「お」「か」「し」「も」を守らせながら、避難する。

火災の場合：電気を消し、付近の窓を協力して閉める。

○停電の想定

放送がかからない場合があることも知っておく。

→近くにいる教員や、拡声器等での指示をよく聞く。

○余震の想定

避難中の地震も大いに考えられることも知っておく。

○避難時の原則

①避難の方法

・火災の場合：火元から確実に遠ざかるために、まず平行に(原則)移動する。(火元から逆の方向に)

・地震の場合：避難経路によっては落下物等で通行できない避難口があることも想定しておく。

※校舎図から、避難経路を2経路以上シュミレーションしておく

②避難する時の態度

・「押さない」、「かけない」、「しゃべらない」、「戻らない」を守り、迅速に避難する。

・地震の場合：落下物（照明器具など）、振動による移動物、窓ガラス等に気を付ける。

※頭を守るもの（ノートなど）をもつ

・火災の場合：有毒ガスを吸い込まないように、低い姿勢で避難し、口と鼻にハンカチなどをあてる。

※ハンカチを常に携帯しておく

③避難場所への整列

・駐車場に、校舎を背にして、集会の隊形で整列する。(雨天時は、体育館ステージ正面)

地震の場合は、余震に備えて、しゃがむ(座らない)

※静かに待機し、避難場所の教員の指示に従うことを指導する。

2. 事後指導

◆訓練終了後、教室に戻ってから、10分程度で行う。授業者が訓練の様子について指導を行う。

○ワークシートを配布し、自己評価、反省、感想を記入させる。

○ワークシートを回収する。

※目を通していただき、教員の行事評価に生徒の意見を反映させてください。

※ワークシートは、後日生徒に戻してください。

◆帰りの会で担任が感じたことを伝える。

※防災意識が高まるような話をお願いします。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(講義形式)

学校名	越前町立織田中学校
報告者	山本 貞郎

I 実施状況

1. 実施期日・参加者等

- 「令和6年度 織田中学校 危機管理マニュアルの見直し」
- 実施日時 10月16日(水) 2校時 10:25~11:15
- 防災アドバイザー 倉谷 道治 氏
- 参加者 本校教頭 山本 貞郎

2. 実施の目的・内容

- 本校の危機管理マニュアルを見直し、より有効で実践的なマニュアルとなるよう助言をいただく。
- 危機管理マニュアルを見直す中で、様々な災害についての状況をイメージし、効果的な対応の仕方を協議する。
- 危機管理マニュアルの見直しを通して、私たち教職員の防災意識を高めるとともに、生徒への効果的な意識付けや指導の仕方を学ぶ。

II 成果と課題

1. 成果

本校の危機管理マニュアルは、災害や事故・事件等から生徒を守るという視点のみあって、教職員を守るという視点が無いという指摘を受けた。これは、まさに「目から鱗」であった。生徒の命を守ることはもちろん最優先するが、同時に私たち教職員の命も守られなければならない。当然といえば、当然のことなのであるが、改めてそのことに気付かせてくれたことがまずもって一番の成果である。

また、職員間で防災に関する話し合いを数多くもつことが大切であり、大がかりな訓練でなくても、話し合いの場で訓練をシミュレーションする「机上訓練」でも大変効果的であることを学んだ。

さらに、危機管理マニュアルは、対応のよりどころとなる大事なもののだが、電気や電話、また、公的な機関(救急車や消防、役場など)の利用ができない非常事態には、マニュアルにはない状況が現れる。そういう時に私たち教職員が冷静さを失わないよう、最悪の事態を想定しておくことも重要であると学んだ。

2. 課題

学校では、毎年、避難訓練や防犯訓練を行っているが、ある程度のシナリオを準備し、それをもとにして訓練を行うことが多い。そうでなく、いつ、どのような規模で起こるかわからない災害に対して、臨機応変に対応できるような備えが必要であると承知してはいるが、その点を協議する時間がなかなかとれないところが課題である。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(講義形式)

学校名	美浜町立美浜中学校
報告者	教頭 西 繁寿

I 実施状況

1. 実施期日・参加者(学年・人数)等

実施期日:令和6年10月1日(火)13:00~14:30

参加者 : 県学校防災アドバイザー 角谷桂一氏、藤田琢美氏
美浜中学校 教頭 西繁寿

2. 実施の目的、内容

学校防災マニュアルの点検、助言(特に、実効性の確保に向けて)

学校防災に関する心構え

事例紹介、事例研究

II 成果と課題

1. 成果

法令を踏まえたマニュアルがおおむね作成されている

実効性確保のために、役割分担等を具体的に記載するとよい。

参考となるマニュアルの紹介

2. 課題

(1) 実効性の確保に向けて

- ・どのような危機に対して、誰が、何をするのか、危機発生時の手引きになるものを作成するとよい。一度に取り組もうとせず、少しずつ改訂を重ねていくように。
- ・水、非常食をはじめとする備蓄品の整備、点検をしておくこと。
- ・非常時持ち出し品の点検、整備(何を、誰が、どこに)をしておくこと。
- ・生徒引き渡し時の交通規制(一方通行等)について、地域ぐるみで考えること。
- ・一斉メール等を活用したプッシュ通知(電話を受けないで済む)体制づくりをしておくこと。
- ・休業時の生徒安否確認の方法を確保しておくこと。(大規模災害時には、携帯電話が不通になることも多い)

(2) 地震発生時の対応

- ・生徒の主体的行動を(シェイクアウト)
- ・停電、断水を前提とした対応を(特にトイレの対応)

(3) その他

- ・水害、土砂災害への対応については、学校はもちろん、通学路のハザードマップも参照して対応を考えるように。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

学校名	池田町立池田中学校
報告者	佐々木 良明

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

- ①実施期日…令和6年6月17日(月)
 - ②想定時間…10:45～11:00
 - ③参加者……小学校1～6年68名、教職員12名、計80名
中学校1～3年34名、教職員12名、計46名 総合計 126 名
- ※派遣された学校防災アドバイザー：松井 峰晴 氏

2. 訓練の目的、内容(※訓練実施計画の添付でも結構です)

- ①大規模災害や不審者情報、獣による人的災害など、不測の事態に備え、児童・生徒の保護者(家族)への引渡し方法の確認をする。
- ②児童生徒の引渡しを小・中学校合同で行う際の、児童・生徒の動きや職員の役割分担を確認する。

II 訓練の成果と課題

1. 成果

大規模災害を想定し、児童生徒の引き渡し方法を確認することができた。学校防災アドバイザーの松井様には、避難訓練の実施計画の作り方や児童生徒の身の安全の確保の方法、教職員の意識の持ち方、校内外危険箇所など、様々な視点で助言をいただくことができた。より実際に起こった場合を想定し、「訓練は本番のように」「本番は訓練のように」を意識して訓練を行っていきたい。

2. 課題

生徒が火災発生現場に極めて近い場合や生徒の身に危険が迫っている場合に、教師がどのように判断し、行動すればよいかを考えなければならない。また、建物の倒壊や地割れなど、屋外にも危険がたくさんあることを踏まえて避難場所や避難ルートを再検討する必要がある。今回は、授業中に、教科担当の教員が常駐している状態での訓練であったが、休み時間や昼休みなど、児童生徒が校舎内に点在し、速やかな状況把握や指示が難しい場合を想定し田訓練も実施しておかなければならない。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(講義形式)

学校名	坂井市立高棕小学校
報告者	教頭 稲葉雄治

I 実施状況

1. 実施期日・参加者(学年・人数)等

実施日:令和6年8月5日 15:30~16:30

参加者: 防災士 久保田 幹大

校長 [REDACTED]

教頭 稲葉雄治

場所: 校長室

2. 実施の目的、内容

現在の高棕小学校の危機管理マニュアルを見ていただき、助言をいただいた。また、11月に行う緊急地震速報装置を使った避難訓練について、他校の事例などを参考にして実施についての助言をいただいた。

II 成果と課題

1. 成果

現在の高棕小学校の危機管理マニュアルは、内容が不足しており、実用的ではないという御指摘をいただいた。福井市のある小学校の危機管理マニュアルを例で示していただき、そのマニュアルは20項目以上の危機に関する対応が細かく記されており、「目次」を見れば、それらの項目をすぐに見つけることができるマニュアルになっていた。今後の危機管理マニュアルの見直しに関して大変参考になる資料を提供していただき、項目についての助言もいただくことができた。教えていただいた助言については、8月6日の教頭会で、丸岡中、平章小、長畝小の教頭先生方に情報を提供し、内容を共有した。

11月に行う緊急地震速報装置を使った避難訓練の実施については、他の学校で実施された訓練の内容などを教えていただいた。例えば、実施することを見学や教職員に非公開にして取り組んだ学校があり、本番さながらの訓練が実施できたことなども教えていただいた。

2. 課題

すぐにでも、危機管理マニュアルの内容を見直して訂正版を作成したいが、作成には多少なりとも時間が必要だと感じた。参考となる学校のマニュアルのデータの提供があれば大変ありがたいと感じた。



画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

学校名	坂井市立高棕小学校
報告者	教頭 稲葉雄治

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

実施日: 令和6年11月22日(金) 13:30~14:30

想定時間: 13:30に地震発生、その後理科室から火災発生、体育館へ避難

参加人数: 443名(全児童407名、教職員31名、防災士1名、他校教頭2名、気象台職員2名)

防災士: 久保田 幹大さん

2. 訓練の目的、内容(※訓練実施計画の添付でも結構です)

目的 清掃時に訓練を実施することで、非常災害時(緊急地震速報含む)における児童の避難する能力と職員の避難誘導の能力を高める。

内容 緊急地震速報におけるシェイクアウト訓練

清掃時間中の避難訓練

災害時における職員の対応と役割の確認

想定 目のリフレッシュタイム時に「緊急地震速報」が放送され、地震が発生する。しばらくして理科室より出火があった。校内放送により安全地帯(グラウンド、雨天時は体育館)への避難を指示する。

II 訓練の成果と課題

1. 成果

- ・緊急地震速報からのシェイクアウト訓練が実施できた。
- ・今までに実施したことのない清掃時間を避難時間に設定することにより、教室以外の場所からの避難を訓練することができた。
- ・訓練後に防災士の方から児童に向けて訓練の講評と災害時の助言をいただくことができた。
- ・訓練終了後に中学校区の小中学校の教頭先生方や気象台の方に参加していただき、学校安全実践委員会を開催し、防災士の久保田さんから、訓練の講評や災害時の備えについて助言をいただくことができた。

2. 課題

- ・訓練の反省としては、児童や教職員の無事の確認に想定以上の時間がかかったという点が課題となった。
- ・防災士の方から、訓練時だけでなく普段から児童に災害について考えさせ、災害の時に自ら考えて行動できる児童を育成してほしいという助言をいただいた。防災士からの助言を教職員と共有し、災害に備えていきたい。



画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

学校名	坂井市立大石小学校
報告者	田畑 和則

I 避難訓練の実施状況

1.実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

日 時 令和6年11月28日(木) 第5校時

想定時間 13:22 緊急地震速報(地震発生)
13:24 火災報知器作動(火災発生)
13:27 避難開始
13:40 校長より講評
13:50 教室で各自振り返り
参加者 全校児童184名 教職員20名 計204名
指導・助言者 学校防災アドバイザー 岡本 拓夫 様

2.訓練の目的、内容

(1)目的

- ・避難訓練の必要性を深く理解し、有事に安全に避難できる力を身につける。
- ・様々な状況下でも安全を確保できる判断力と知識を身につける。
- ・災害時、児童を安全にかつ速やかに避難誘導するための方法を学び、連携体制を整える。

(2)内容

○学校自衛消防組織

役 割	担 当 者	内 容
本部長	校長	・総括、避難方針の決定
副本部長	教頭	・本部長の指示による避難放送、 点呼集約
副本部次長	教務	・各班との連絡、調整
総務班	教頭 事務職	・災害情報の収集・校内放送(教頭) ・消防・警察への通報(事務職)
避難誘導班	各担任 支援員	・避難誘導 ・児童等の安全確保
救護班	保健主事 養護教諭	・病人やけが人など <u>自力避難困難者の</u> 救護
搬出班	教務 事務職	・出席簿、家庭環境調査票、非常持ち出し重要書類の搬出と保管

(様式2)

○当日までの準備

・学級担任と児童・・・避難に関する経路・方法・注意点などの指導・確認

～避難時の合言葉～

「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない・

ほうそうをしっかりと聞く・いのちを守る」

・教頭・・・放送機器の準備・点検。

関係機関(消防署・市教委・警備会社・機器点検業者)への連絡

○避難時の指導ポイント

・緊急放送が聞こえたら、児童・教職員はすべての学習行動・指導を中断し、静かに放送を聞き、状況をつかむ。

・教職員の指示に従い、落ち着いて避難することで安全が図れることを指導する。

・授業者は窓を閉める。授業者は児童がフロアに取り残されていないか可能な範囲で確認し、電気を消し、コンセントを抜く。(火災対策)

・全員の無事が確認できるまで、児童を避難場所に静かに座らせて待つ。

○当日の流れ

朝活動	①朝の会 □担任・・・出欠確認をしっかりと行う。 集合時に報告できるようにする。
13:22	②地震発生(緊急地震速報音発報) □緊急地震速報装置アナウンス 「訓練、訓練、(緊急地震速報音)これは緊急地震速報の訓練です。およそ30秒後に震度6強程度の地震がきます。 (緊急地震速報音) およそ20秒後に震度6強程度の地震がきます。 (緊急地震速報音) すぐに震度6強程度の地震がきます。 (揺れる音) 揺れが収まるまで身を守ってください。訓練です。」
13:23	□児童・授業者はシェイクアウトの姿勢になる。 □教頭 「揺れは収まりましたが、余震があるかもしれません。近くの教室で静かに次の指示を待ちなさい。」 □児童・授業者は「シェイクアウト」の姿勢を保つ。 教室・・・机の下に潜り、頭を守らせる。机の脚を対角線にもつ。 廊下・トイレ・・・蛍光灯や窓から離れ、姿勢を低くし、手や帽子で頭を守る。(ダンゴムシのポーズ)

(様式 2)

13:24	□授業者はドアを開け、避難経路を確保する。 ③火災発生 □南校舎 2 階理科室前の火災報知器が作動 □教頭 「ただいま南校舎 2 階の火災報知器が鳴りました。現場の確認に向かいます。児童のみなさんは先生の指示に従い、教室で待機しなさい。」 □児童は机の下で待機し、余震に備える。 □教務もしくは職員室にいる職員が南校舎 2 階に向かい、火災を確認した後、職員室に連絡するとともに、非常ボタンを押す。 □火災発生の連絡を受けた職員室より避難指示(教頭)。 □教頭 「ただいま南校舎 2 階の理科室より出火が確認されました。児童のみなさんは先生の指示に従い、グラウンド(体育館)に避難しなさい。」
13:27	④教員引率のもと児童避難開始 □教室の窓を閉める。電気を消し、コンセントを抜く。 □ハンカチで口と鼻を覆わせ、整列させる。 □非常口のドアは最初避難するクラスの引率者が開放する。 □「お・か・し・も・ほ・し・い」を徹底させながら、避難する。 □グラウンド到着 ・整列指示・・・教務 ・司会進行・・・防災担当 ・時間計測・・・教頭 ・グラウンドは東門、体育館はステージに向かい、左から各クラス縦一列で整列する。 ・点呼の方法・・・引率者→教頭→校長(引率者→学級担任) 「○年△組、本日欠席●名、合計□名 全員避難しました。」 ・点呼終了後も静かに座って待たせる。 ・教員の人数確認も行う。(教頭→校長)
13:40	⑤避難完了
13:40	⑥校長講評
13:50	⑦諸連絡(教務)
14:20	□整美委員会担当教員は雑巾を児童出入り口に用意しておく。 □児童は教室に戻り、振り返りシートを記入の後、帰りの会を行う。 児童下校
14:45～ 15:35	学校防災アドバイザー派遣事業 大石小学校研究協議会

(様式2)

Ⅱ 訓練の成果と課題

1. 成果

10月に設置された緊急地震速報装置を活用して避難訓練を行った。実際のアラートと同じ音を使った今回の訓練では、これまで以上に真剣に訓練に取り組む児童が多くなった。訓練日の2日前に震度5弱の地震が石川県で発生したため、「いつ・どこで地震が起こるか分からない」という危機意識をもって訓練に臨むことができた。

事前の打ち合わせでは、シェイクアウトのポイントについて講師からアドバイスをいただいた。児童への事前指導においても、机の下に潜るだけでなく、揺れて机が倒れないように、机の脚を対角に押さえる必要があることを理解させることができた。また、地震の際には教職員も児童と共にシェイクアウトを行うことで、児童の避難訓練への意識を高めることも教えていただき、実践に際し教職員の取り組み方も向上した。



【写真:体育館への避難の様子】

2. 課題

避難時、廊下と階段の合流地点で他クラスが通り過ぎるのを待つ場面が見られた。譲り合って避難が遅くなるため、広い廊下では2クラスが並列して避難してよいことを今後の避難訓練では指導していきたい。また、教室でシェイクアウトする時や避難の際に、落下物があることを想定し、頭を守るための帽子や被れる物で頭をおおうことも職員で徹底を図っていきたい。

避難訓練後に行った協議会では、頻発する水害に対する備えについても話題となった。水害が起きた場合、垂直避難した後でも、下水管に水が流れ込み、トイレが使えなくなるため事前に準備をする必要がある。また、防災倉庫が使えなくなることが予想されるため、簡易トイレ用袋や凝固剤、防寒具などを用意しておく準備も進めていきたい。



【写真:福井地方気象台から講師をお招きし、中学校区の先生方を交えての協議会】

学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

学校名	坂井市明章小学校
報告者	岡崎 昌

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者（学年・人数）等

令和6年11月28日（木）大休み（10:15～10:30）

全校児童78名および教職員

2. 訓練の目的、内容（実施訓練計画案添付）



II 訓練の成果と課題

1. 成果

今回は休み時間に災害が発生したという想定で避難訓練を行った。緊急地震速報装置を使つての休み時間想定避難訓練は初めてだったのでどういった反応を見せるか不安であったが、シェークアウトも避難もスムーズに行うことができた。また、停電になることを想定し、放送ではなく、拡声器を使つての避難指示も実施し、有効な訓練が行われた。その後防災アドバイザーの方に本日の避難訓練についてお話をいただいた。地震計を実際に児童に見せていただき、体育館内で足踏みやジャンプすることで地震計の仕組みを確認することができた。また、研究協議会では、気象台の人を交えて、お話を聞くことができ、中学校校区内の防災担当教員と各校の避難訓練について協議することができた。避難訓練でも、学校の状況や環境によって取り組み方も違い、また、教員に対する働きかけも必要なことを感じた。また、防災アドバイザーや気象台の人から今後の指導に役立つ資料なども紹介していただき、とても有意義な会になった。

2. 課題

今回は、休み時間想定避難訓練の様子を見ていただいた。児童の前でお話をいただくことで、避難についての考え方を深めることができた。今回は拠点校ということで校区内の先生方への協議会形式をとらせていただいたが、来年度以降は、本校教員向けの講義演習形式を実施してもいいとのことだったので、地震発生後のタイムラインに沿った避難指示やマニュアル確認などを検討していきたい。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

令和6年度 避難訓練実施計画（案）

明章小学校

1. 日 時 令和6年11月28日（木） 10:15～10:30
ふれあいタイム中に地震発生
2. 目 的
 - 1) 災害から人命を守る。
 - 2) 学校の施設・設備の保守・点検を行う。
 - 3) 安全に対する児童の意識を高める。
3. 想 定 緊急地震速報後避難
4. 合 図 校内放送
5. 指 令
 - 1) グラウンド南側、掲揚塔付近へ避難せよ。
 - 2) (雨天の場合：体育館・ステージ前に避難せよ。)
 - 3) その他 災害の状況に応じて指令する。
6. 参 加 者 児童 78名 職員 14名 計 92名（防災アドバイザー）2名
7. 要 領
 - 1) 休み時間でも放送を静かに聞き、指示に従い安全に避難できる準備をする。
 - 2) 避難場所では、指導者に向かって児童朝礼の隊形で整列する。
 - 3) 誘導完了後、人員点呼・報告。 **担任(授業者)→教頭→校長**
人数に「異常」がある時は、校長（教頭）が直ちに救出の指示をする。
 - 4) 避難完了後、校長は必要に応じて各係に指示する。
 - 5) 各クラスで、担任より事後指導を行う。

8. 組織

係 名	活 動 内 容	分 担
総 指 揮	総 括	校 長
指 揮	情報による避難方法の指示 各係への指示	教 頭 教 務
通報連絡係	出火の伝達・避難方法の指令 消防署・警察署・市教委への連絡	教 頭 事 務
誘 導 係	避難場所への安全誘導	全 職 員
点 検 係	逃げ遅れ児童の最終点検	各 担 任
搜索・救出	逃げ遅れ児童の搜索・救出	教 務
搬 出 係	非常持出物の搬出と保全管理	教 頭
救 護 係	負傷者の手当・医師への連絡	養護教諭
消 火 係	初期消火	教 務

9. 訓練当日の日程

- (1) 避難訓練 10:15～
- (2) 校長先生、防災アドバイザーの方のお話 10:20～（体育館に移動）
- (3) 振り返り 10:40～各学級

★児童には、「11/25～29の休み時間に実施する」と予告

★11/25（月）2時間目（9:30頃）緊急地震速報放送テスト→机の下に

※校庭に避難はなし

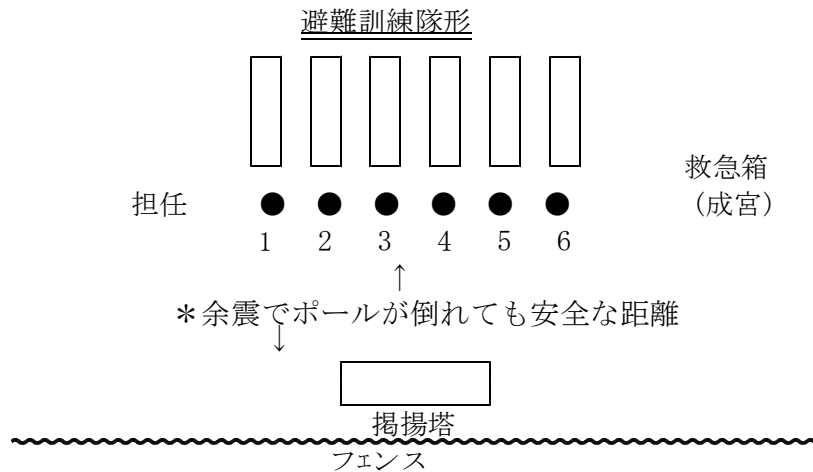
避難訓練実施要領

時間	内 容	備 考	指 令 等
10:10	2 限目終了 → 休み時間		
10:15	緊急地震速報	教 頭 装置操作	
10:16	※ 人員点呼・報告	教 頭 (担任→教頭) (教頭→校長)	『訓練、訓練、訓練、ただいま地震が収まりました。余震がこの後起きるかもしれませんので、グラウンドに避難しなさい。』
10:20	※ 点呼・報告完了		
10:25	※ 校長先生のお話 ※ 防災アドバイザーの講評	校 長	
10:35	※ 訓練終了	内ブツクの砂を落とし、雑巾で拭いて校舎内へ入る。	事後、各学級で感想を書く

※備考 雨天時は、避難場所は体育館。間隔をとって整列する。

点呼報告の仕方：○年生 ○名 欠席者○名 計○名 異常ありません。

○名不明です。



事前指導

- ・静かに放送を聞く。
- ・避難場所に安全に移動できる。(お・は・し)
- ・避難場所では静かに待つことができる。

※事前に休み時間の地震に備えた(建物から離れた)避難経路を確認しておく。

- ★教室・・・机の下に
- ★体育館・・・中央でしゃがんで待機
- ★グラウンド・・・その場でしゃがんで待機
- ★廊下・・・窓からはなれしゃがんで待機

(様式2)

学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

学校名	春江東小学校
報告者	水崎 直美

I 避難訓練の実施状況

1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

実施期日 令和6年11月15日(金)

想定時間 10:05~11:50(防災教室、研究協議会含む)

参加者 春江東小学校児童・職員 333名、春江東幼保園児・職員 86名、
計 419名

学校防災アドバイザー 松井 峰晴 氏

2. 訓練の目的、内容(※訓練実施計画の添付でも結構です)

※ 別添 避難訓練実施計画あり

II 訓練の成果と課題

1. 成果

休み時間に起きた災害に対応する訓練と結び付け、登下校時や家にいるときに起きた場合についても、家庭で話し合う活動を取り入れた。引き渡し訓練と時期をあわせたこともあり、家庭でも災害に対する意識を高めることができたと思う。また、本校では授業中以外の避難訓練は初めてだったようで、職員にとっても状況や場所に応じた指導の訓練ができ有意義だった。

気象庁の方からは、授業でも使えるプレゼンテーション資料をいただき、学校でも防災教育に活用していきたいと思った。

防災アドバイザーの松井氏からは、全校児童対象の防災教室において、地震だけでなくその他様々な災害(水害・火災など)時の対応についても、クイズ形式で教わりました。実際の写真を見ながらの解説もあり、災害を実感し防災に対する意識を高めることができた。



2. 課題

他校の避難訓練の取組みから、次年度は訓練の時期と回数を見直したいと思った。多様な想定訓練を年間の見通しを持ち、計画的に実施していきたい。

校内での訓練にとどまらず、地域や中学校区でまとまって行っていく必要もあると考えるが、日程調整や運営など、様々な課題もあると思う。差し当たって、来年度はPTA行事を大きく見直し、PTAの協力を得た防災の取組みについても検討中である。従来の親子行事のあり方を少し変化させ、防災をテーマに行ってみてはどうかという案がある。保護者の協力を得ながら、学校だけでなく地域とつながり、児童の日常の中での防災をいかに体験的に学ぶことができるかについて、今後企画していきたい。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。

令和6年度避難訓練実施計画

春江東小学校

1. 目的
- ・緊急地震速報が出た際に自ら命を守るためにはどうすればよいか考え、正しい避難の行動を身につける。
 - ・児童一人一人の防災意識の向上と地震発生時における事故の防止を図る。
 - ・避難訓練を通して、安全に避難する方法や順序を体得させる。

2. 実施日

令和6年11月15日(金)10時05分～11時10分(振り返り含む)

(児童には、日は事前に知らせるが、開始時刻は知らせない。)

10:05 緊急地震速報発報 → 避難訓練(休み時間実施)
10:06 避難行動開始【避難場所】グラウンド (雨天時:体育館)
避難場所に集合
10:13 避難訓練についての講評(校長)
10:20 上ばき洗い → 体育館へ(トイレを済ませておく)
10:30～10:50 防災教室(防災アドバイザー)
11:00～11:10 振り返り(教室で)

3. 重点
- ・児童は放送や先生の指示をしっかりと聞き、静かに安全に行動できるようにする。
 - ・避難経路を確認し安全に避難できるようにする。
 - ・児童の防災意識を高めるようにする。
 - ・教職員は児童の安全誘導を優先とする。

4. 避難経路 別紙参照

5. 集合場所 グラウンドの掲揚塔を背にして、校舎側より幼保園、リソース、1～6年 各組2列で整列
※雨天時は体育館の中で朝礼の並び方で整列。



6. タイムテーブル及び担当者の動き

10:05 緊急地震速報発報

♪アラーム音
「訓練です」
「訓練、訓練、これは緊急地震速報の訓練です」
「緊急地震速報」
「およそ30秒後に」
「震度6弱程度の地震がきます」
「10, 9, 8, 7, 6……」
「震度6弱程度の地震がきます」
~~~~~ 揺れが到達 ~~~~~  
~  
「揺れが収まるまで身を守ってください」  
「ゴゴゴゴゴ……(強い揺れを表す効果音)」  
「訓練です」

♪アラームが鳴ったら  
それぞれの場所で机の下に隠れる、頭を保護する等の対応行動をとる。

**先生の対応**…児童への指示

- ・ドアを開け、通路の確保
- ・机の下に避難

**児童の対応**…安全確保

- (机の下に隠れる等)
- ・退避状態のまま次の指示を静かに待つ

### 10:06 避難行動開始

放送(教頭):「ゆれがおさまったので、グラウンド(体育館)へ避難を開始してください」

教職員は近くにいる児童を誘導・避難させる

- ・廊下に出て並ぶ。上履きのまま避難場所へ避難
- ・高学年は低学年の避難を手助けするなど、お互い助け合う。

避難場所に集合

- ・児童は避難場所に移動し、到着した人から学年の列に並び座って待つ。
- ・学級担任が人員点呼。教頭に報告。

**報告**

『〇年〇組 全員います。』

『〇年〇組 □□さんが不明です。』

### 10:13 避難完了

講評【校長】

### 10:20 上ばき洗い → 体育館へ集会の隊形で並ぶ(トイレを済ませておく)

**上ばき洗い**

- ・グラウンドから出る時に、コンクリート部分でよくはたいて砂を落とす。
- ・ズック裏を雑巾で拭く。
- ・教師の点検を受けた児童から校舎内に入り、体育館へ並ぶ。
- ・5・6年生は北玄関・体育館トイレ使用
- 3・4年生は児童玄関・ライブラリー前トイレ使用
- 1・2年生は教室外のウッドデッキ・学年トイレ使用

※雑巾の準備は清掃担当でお願いします。

### 10:30~10:50 防災教室(防災アドバイザー)

## 11:00～11:10 教室で振り返り

### 係活動

◎防護処置係:避難の際の校舎内部の残留人員の点検、防火扉・防火シャッター等の閉鎖の任にあたる。 \*各学年主任

南校舎1階【 】 南校舎2階【 】  
北校舎1階【 】 北校舎2階【 】  
本館1階【 】 本館2階【 】 体育館【 】

◎消火係:火災場所の確認をし、初期消火活動の任にあたる。

\*中弥、【 】

◎搬出係:校長室や職員室から必要最小限の重要書類などの搬出、集積場警備にあたる。 \*【 】

◎救護係:負傷者・要保護者の発見、応急救護の任にあたる。

\*【 】(支援が必要な場合、無担任、学級サポーターが行う)

◎連絡通報係:災害発生の様子、避難方法を校内の教職員や児童に通知するとともに、消防機関その他関係機関に連絡・報告する任に当たる。 \*【 】

◎避難誘導係:児童の安全な避難誘導にあたり、避難後児童を整列させ、人員の掌握・確認にあたる。(異常があれば再度報告)

\*各学級担任

## 7. 事前指導

### ① 災害時の行動確認

**休み時間** ・教室・廊下・体育館・グラウンド・・・口を閉じ、放送、近くの教員の指示に従う。  
グラウンド・・・中央(落下物、転倒物を防げる場所)で頭を守り、身を低くする。  
体育館、廊下・・・落下物、転倒物を防げる場所で頭を守り、身を低くする。  
教室(机のある場所)・・・机の下に隠れて頭を守る。

・上級生は下級生と一緒に誘導し避難できるとよい。

**授業中** ・授業の教員の指示に従う。

### ② 合い言葉「お・か・し・も・て」の徹底

おさない かけださない(廊下や階段) しゃべらない もどらない **ていがくねんゆうせん**

### ③ 廊下や階段の移動

・早足 → 体育館やグラウンドへ出たら走る。(内ばきのまま)  
・廊下の端はガラスの破片が落ちていることがあるので足元に気を付ける。  
可能であれば頭を守るために帽子をかぶる。

### ④ 負傷者がいた時の対応

大きな声で、近くの教員や上級生に助けを求める。

### ⑤ 放送をしっかりと聞く。ふざけない、声を出さない。

集合場所では口を閉じる。



## 8 事後指導

- ① 指導・指摘された事項は、各学級において再度確認する。
- ② 「避難訓練ふりかえりシート」を実施し、家庭での災害時の話し合いにつなげる。

## 9 その他

- ・火元責任者になっている場所の安全を日常的に確認する。  
落ちやすい物、倒れやすい物、移動して危険な物、火災につながるような物はないか。  
非常口、防火扉の開閉の確保。
- ・避難経路の確認

## 10. 備考

- ①実際の地震の場合
  - ・エレベーターは1階で停止する。
  - ・防火シャッターと防火扉が作動することがある。(振動によりストッパーが外れるため)
- ②関係機関への連絡(教頭)
  - ・消防署・・・「防火管理に関する自衛消防訓練通知書」「計画書」を提出  
(今回は火災なしのため不要、年1回は実施が必要)
  - ・防災設備会社(テクノ防災)51-8119(担当:片岡様)・・・機器作動依頼
  - ・警備保障会社(アイビックス)33-8530・・・訓練前と訓練終了後に依頼
- ③学校防災アドバイザー派遣事業 研究協議会  
11:10~11:40 会議室  
防災アドバイザー(松井様)、気象台職員(丹下様、上田様)、春江小学校防災担当者、  
校長、教頭

## 非常口と避難経路

1年生教室(ワークスペースを含む)・・・⑤避難口→児童玄関横→グラウンド  
2年生教室(ワークスペースを含む)・・・⑥避難口→児童玄関横→グラウンド  
3年生教室(ワークスペースを含む)・・・階段1→③避難口→グラウンド  
4年生教室(ワークスペースを含む)・・・⑨避難口→児童玄関横→グラウンド  
5年生教室(ワークスペースを含む)・・・階段2→②避難口→グラウンド  
6年生教室(ワークスペースを含む)・・・⑩避難口→児童玄関横→グラウンド  
リソースルーム・・・・・・・・・・・・⑦避難口→児童玄関横→グラウンド  
支援センター・保健室・・・・・・・・③避難口→グラウンド  
家庭科室・・・・・・・・・・・・⑦避難口→児童玄関横→グラウンド  
理科室・・・・・・・・・・・・⑧避難口→児童玄関横→グラウンド  
図工室・・・・・・・・・・・・⑧避難口→児童玄関横→グラウンド  
ふれあいホール・・・・・・・・①③避難口→グラウンド  
ライブラリセンター・・・・・・・・③避難口→グラウンド  
音楽室・メディアセンター・・・・・・階段1→③避難口→グラウンド  
多目的ルーム・・・・・・・・・・・・階段1→②避難口→グラウンド  
職員室・校長室・印刷室・・・・・・④避難口→グラウンド  
体育館・・・・・・・・・・・・⑪⑫避難口→グラウンド  
プール・・・・・・・・・・・・⑬⑭避難口→グラウンド

※春江東小学校避難経路図参照

(様式2)

## 学校防災アドバイザー派遣事業報告書(避難訓練)

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校名 | 坂井市立雄島小学校 |
| 報告者 | ハウカ佐由里    |

### I 避難訓練の実施状況

#### 1. 実施期日・想定時間・参加者(学年・人数)等

実施日: 11月6日(木)

想定時間: 10時12分地震発生(2時間目終了後、清掃場所に移動中)

参加者: 児童221名、職員21名

学校防災アドバイザー: 岡本拓夫氏

#### 2. 訓練の目的、内容

10月に設置された緊急地震速報システムを使い訓練を行った。掃除場所に移動している途中に、地震発生という想定で実施した。訓練の時間は、事前に児童に周知しておらず、教員が近くにいない状況でも、シェイクアウトできるかどうか、高学年が低学年をリードしながらグラウンドに避難できるかどうかの訓練を行った。

避難訓練後、学校防災アドバイザー、気象庁の地震津波防災官、リスクコミュニケーション推進官、加戸小学校と三国西小学校の担当者として研究協議会を行った。



### II 訓練の成果と課題

#### 1. 成果

学校防災アドバイザーとの事前打ち合わせで、次のアドバイスをいただき、避難訓練計画の見直しを行うことができた。

・グラウンドは盛土になっており、崖崩れの危険性がある。

→グラウンドの端まで避難せず、なおかつ校舎の倒壊の影響がないであろう範囲に集合場所を変更

・体育館の中央照明や2階ギャラリーの遊具等の落下の可能性が考えられる。

→ステージに向いてではなく、避難口に向いて横長に整列するよう変更

・緊急地震速報の音は、緊迫した雰囲気を出すように作られている。

→児童が落ち着いて訓練に臨めるよう、訓練前日の朝の会の時に、緊急地震速報を流し、教室でシェイクアウト訓練を実施

#### 2. 課題

緊急地震速報の音声に従いシェイクアウトし、高学年が低学年をリードしながら全員が避難することができた。しかし、途中走ったり、集合してからしゃべってしまったりする場面がみられた。身を守るための正しい行動を指導し、訓練を重ねる必要がある。

画像(打合せ、訓練、講評等)も出来るだけ貼り付けてください。



(様式2)

## 学校防災アドバイザー派遣事業報告書（避難訓練）

|     |            |
|-----|------------|
| 学校名 | 坂井市立三国北小学校 |
| 報告者 | 名倉 康浩      |

### I 実施状況

#### 1. 実施期日・参加者（学年・人数）等

期 日：令和6年11月11日（月） 10：10～11：20

参加者：児童 233名 教 職員 23名

#### 2. 実施の目的、内容

目 的：

○避難訓練の取組を点検し、より実効性のある訓練となるよう計画の指導助言をいただく。

○自分の命を守る意識の向上に向けた防災学習への指導助言をいただく。

### II 成果と課題

#### 1. 成果

（事前打ち合わせ）

防災アドバイザーに来校いただき、打ち合わせを行った。打ち合わせの中で、避難の際のポイントや重視すべき点を教わった。

特に、小学校の場合は職員の動きが重要で、児童だけでなく職員のための訓練という意識をしっかりとつことを学んだ。

また、防災アドバイザーの方が様々な事例を紹介してくださり、話を聞いている中で、担当者である私自身のイメージが膨らみ、独自の取り組みを考える一助となった。

（危機管理マニュアルの点検）

打ち合わせの後、本校の危機管理マニュアルを防災アドバイザーに送付し、点検していただいた。本校のマニュアルのよい部分、不十分な部分を指摘していただき、見直しのための視点が定まった。

特に、停電や断水の影響に備えた対応を記載することで、その状況への意識の向上も図られ、より実効性のあるものになると感じた。今後の見直しに生かしていきたい。

（封筒訓練の活用）

今回は、4人の職員を対象に封筒訓練を実施した。

事前に用意した封筒（困惑した児童の様子が書かれた用紙が入っている）を避難の直前に見て、対応を考えながら避難するもの。考えた対応策について、避難完了後に全校児童の前で共有した。全職員、全校児童で封筒訓練の内容を共有したことは、今後の行動の指針となると思われる。

画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。

## (様式2)

### (避難の実際)

今回は地震を想定し、緊急地震速報装置を活用した避難訓練を行った。避難経路の一部を通行不可とし、階段が複数の学年で混雑する設定とした。上位学年が待機し譲る形をとったが、防災アドバイザーからは、内回りと外回りの区別をつければスムーズに通行できることを指導していただいた。

また、どんな状況になってもあきらめずに避難をすることの大切さを教わり、職員も児童も、いざというときの心構えをもつことができた。

### (研究協議会)

訓練後に、研究協議会をもち、今回の訓練を振り返るとともに、より実効性のある訓練にするためにどうすべきかを考えた。また、气象台の方にも来校いただき、水害や土砂災害についても学んだ。

避難訓練は、自分の命を守るための力をつけるために学校で行う学習であるということ。その意義を全教職員と全校児童が共通理解し、本校の学校防災（危機管理）意識をさらに高めていきたい。

## 2. 課題

今回は、授業中に地震が発生したという想定で、学級毎にまとまって避難した。避難経路も担任の誘導によるもので、大きな混乱なく避難できた。しかし、災害はいつ起こるか分からないので、休み時間や登下校時など、児童だけになる時間帯での訓練の必要性を感じた。日頃から児童の防災意識を高め児童・職員共に自ら考えて判断する力を育てていくことが必要と考えている。



画像（打合せ、訓練、講評等）も出来るだけ貼り付けてください。